

地域学校協働連携NEWS



こちらのQRコードから、閲覧・ダウンロードができます→

地域連携担当教職員等南会津地区研修会

6月12日(金)、域内小中高校の地域連携担当教職員及び各町村教育委員会等の関係者を対象に開催しました。当日は24名の参加者が集い、「講演」及び「熟議・実践演習」をとおして学びを深めました。

講演 「『社会に開かれた教育課程』の実現 ～コミュニティ・スクールの活用を通して～」

コミュニティ・スクールとは？

学校の教育目標達成のために、保護者・地域住民が学校経営に参画し、学校の自主性・自律性を確立し、教育の最適化を図るために協議する仕組み、またはその仕組みが導入された学校



「対話と信頼に基づく学校経営を行っている学校」

うなCSを関係者を交えて作っていきたいと思います。それには、校長と情報などを共有して、実践できることから始めていきたいと思います。

- 「社会に開かれた教育課程」を実現するためには、コミュニティ・スクールを単なる制度として捉えるのではなく、地域と学校が“共に子どもを育てる関係”へと質的に転換していくことが重要であると再認識できました。地域の多様な人材や学習環境を教育課程に組み込み、学校の課題や目指す姿を共有しながら協働していくことで、子どもたちの学びがより実社会と結びついたものになると感じます。今後は、特に熟議、対話の場づくりを意識し、地域とともに学びを創る姿勢を一層大切にしていきたいと思います。

熟議 「地域とともにつくる 『社会に開かれた教育課程』」

熟議参加者が大切にしたい3つの意識を学びました。

- ① 傾聴意識
相手の話に関心を持ち共感しながら聴く意識
- ② 学ぶ意識
課題把握や解決方法の検討から学ぶとする意識
- ③ 当事者意識
課題を自分事と捉え、自分の役割を常に考える意識

<参加者の感想>

- 「コミュニティ・スクール」の定義について、「協議する機関」だと知り、勉強になりました。学校と地域の課題をともに解決し合うことができれば、地域の教育力も上がる気がしましたが、なかなか今の多忙な中では難しいなと感じました。
- コミュニティ・スクールについて、よく分かっていなかったと感じました。先生方や保護者、地域の方へもしっかり伝えて一緒に考えていけるようなCSを関係者を交えて作っていきたいと思います。それには、校長と情報などを共有して、実践できることから始めていきたいと思います。
- 熟議する機会はなかなか無いので、新鮮な気持ちで参加させていただきました。参加者が学校関係者のみだったので、もし同様のテーマであれば、役場の皆様にも参加していただくと、新たな気づきもあったかと感じました。
- 熟議の開き方からその使用法まで、丁寧に教えていただき、とても勉強になりました。

地域学校協働活動の充実のためには、地域連携担当教職員を中心としながら、学校全体、地域全体でどのような子供を育てたいのかという共通認識をもち、それぞれの立場でできることに取り組んでいく必要があります。活動の充実のため、皆様のご協力をお願いいたします。



安齋 宏之 氏